

多世代がともに住み集う快適なまち

令和4年(2022年) 7月1日発行

長浜地区地域づくり連合会発行

広報長浜まちなか

〒526-0037

長浜市高田町12-34 長浜まちづくりセンター内(さざなみタウン)

TEL・FAX 64-2753



暮らしのなかの緑

米川のほとりの エノキ

大通寺の南東、米川沿いの日吉神社には大きなエノキがあります。神社が建立された約200年前に植えられたとされ、高さ9.8m、幹周りは1.3mほどの大きさです。漢字の榎には、「夏に日陰を作る木」という意味があるそうで、米川に大きく枝葉を広げる様子はいかにも涼やか。

「物心ついたときにはもうこのくらいの大きさやったと思うわ。子どものときは登って遊ぶこともあったなあ」と教えてくれたのが、神社のお隣に住む北川吉弘さん(80)。

日々の掃除をはじめ、ときには木の枝はらいを行うなど、長年世話をしてくださっています。大樹になったエノキは根を広げ、境内の石囲いを動かしてしまうほど。「たぶんうちの家の地下にも根を張ってるやろなあ」と苦笑します。

この界隈をよく知る人なら、もう1本の大木を思い浮かべるかもしれません。エノキに並ぶよ



うにサクラが植わり、開花時はお花見スポットになっています。

実はこのサクラ、北川さんが中学生の頃、「祖母が植えた」ものなのだとか。サクラの方は道路に向かって枝を広げ、エノキと一対になって影を落としています。

さらに昔を振り返ると、かつてはすぐそばに大きなヤナギの木があったそうです。北川家の家系は江戸末期に始まり、絹を扱う商店を営んでいたそうで、店への目印となるのがヤナギでした。

商店や宿が並び大いに賑わっていた大通寺

の門前のこと、床上まで浸水した米川の氾濫のこと…北川さんから聞く思い出話は、まるで昨日の出来事のように鮮明です。

当たり前のように樹齢を重ねた木、それはまちの移り変わりのなかで生き残ってきたともいえます。景色はそこに住む人がつくるものなのだと改めて感じるのです。

今年度、地域づくり連合会では、お宝発見事業の第3弾として、緑にスポットをあてたガイドブックづくりに取り組みます。あなたが大切にしたい、語り継ぎたい緑(木、花、園芸などジャンルは問いません)のこと教えてくださいませんか。情報をお寄せください。

今年度はこんなことに取り組みます



住む人と訪れる人が交流する場を

長浜地区地域づくり連合会

会長 辻正明

今年度、第1から第9までの連合自治会が一本化し、長浜まちなか連合自治会がスタートしました。長浜のまちなかは、都市的な便利さと魅力がほどよく得られ、しかも豊かな自然に包まれています。それらのメリットを生かし、住む人と訪れる人が、楽しく交流できる場と機会をみんなで創っていきましょう。

防災防犯部会

○防犯活動の推進

- ・安全・安心のまちづくり推進事業（防犯カメラ等の設置）
- ・スクールガードの推進（協力員の登録推進）

○防災活動の推進

- ・防災訓練の実施(まちなかフェスタとして開催予定。避難所運営研修、小学生の避難所体験など)

福祉健康部会

○スマートウェルネスシティづくり

- ・健康づくり講演会の開催（11月長浜まちなかづくりセンター 予定）
くウェルネス…健康な心身ならびに社会生活を得て、より積極的・創造的な健康を目指し、維持発展させようとする生活行動>

○子どもふれあい交流広場・子ども食堂

- ・長浜まちなかづくりセンターとの共催（8月20日、10月29日、11月12日、1月14日）
- ・他部会や自治会との連携による交流広場を開催予定

○高齢者への支援活動

- ・長浜地区社会福祉協議会への協力事業
高齢者サロンの設置促進及びサロンへの支援
地域・世代（三世代）交流事業…魚つかみ大会開催支援（八幡川）
- ・高齢者の居場所づくりの促進
- ・話咲隊の活動・研修支援、交流会の開催

文化スポーツ交流部会

○スポーツレクリエーション事業

- ・フラッグフットボール教室、グラウンドゴルフ大会（6月終了）
- ・長浜まちなかロゲイニング大会・カロム大会（まちなかフェスタとして開催予定）
くロゲイニング…野外に多数設置されたチェックポイントを制限時間内にできるだけ多く回り、得られた得点を競う野外スポーツ>

○文化交流事業

- ・米川かわまちづくり事業（快適環境部と共催）大学生・高校生など、地域内外の仲間と川について学ぶ、楽しむ
- ・長浜まちなか”お宝”再発見！事業（快適環境部会と共催）木の文化財とその多様な価値（緑の環境抑制機能など）の再発見・事前調査、まち歩き、講演会・”木の巻”冊子の発行

快適環境部会

○空き家問題の理解への第一歩セミナー（相談窓口紹介、適正管理、予防・解決策など）を自治会長、環境推進担当などに向けて実施

○長浜駅前・花いっぱい運動

- ・秋季：令和4年11月予定
- ・花ポケットパーク（ミニプランター）の設置促進

○使用済み廃食油の回収

取り組み内容については現段階の予定であり、今後変更になることもあります。

今年もまちなかフェスタ開催

今秋から来春にかけて、長浜まちなかフェスタがロングランで開催されます。長浜のまちなかにお住いの皆さんと、さざなみタウンを訪れる皆さんが集い、ともに豊かな暮らしをめざすイベントです。今後詳しい行事や予定を紹介していきます。お楽しみに！

【期間】 令和4年10月1日～令和5年3月末

【会場】 さざなみタウン・長小と西中の体育館など

【主催】 同実行委員会事務局 長浜まちづくりセンター・当連合会

3年目も花いっぱい！



長浜駅とえきまちテラスをつなぐデッキの花壇に季節の花苗の植え付けをお手伝いするようになって3年目になります。

通算で5回目にあたる今回は5月に実施、70名を超える地域の人たちが集まって1500苗を植栽しました。みなさん作業がスピーディーであっという間に完了し、さらに商店街などに大型プランターの設置も行いました。

駅利用者、観光客、そしてここに暮らすみんなの潤いになればなによりです。ご協力ありがとうございました。今秋にも予定しています。

自治会による防犯カメラの設置を支援

今年度に防犯カメラの設置を希望する自治会を募集します。当連合会が防犯カメラ数台を一括購入し、希望する自治会に無償貸与。設置と維持管理は自治会で行っていただきます。

近く、全自治会長さんへ募集要項をお送りし、応募方法などをご案内します。詳しくは当連合会事務局へお尋ねください。

地域で高齢者を見守る

2020年に結成しながらもコロナ禍で活動自粛を余儀なくされていた話咲隊（はなさかたい）が、取り組みを再開しています。

健康上の理由などでサロンなどに参加できない高齢者宅へ訪問し、おしゃべりを通じて交流、孤立を防ぎ、地域の絆を深めていこうと、住民有志で結成。現在は60～80代の男女9人が「隊員」です。

現在は要望のあったお宅へ隊員が二人一組となって月1度程度訪問。「80～90代の方が多く、人生経験が豊富で、私たちにとっても参考になるお話ばかりで設定した1時間があっという間。名残り惜しんでくださる方が多くありがたい限りです」と代表の沢尾珠枝さんは喜びます。

新聞でも紹介され「うちにも来てほしい」と要望が舞い込んでいるそう。隊員も皆訪問を楽しみにし、活動が地域や高齢者のためばかりでなく、自分のためになっているそうです。

今後さらに活動の拡大をめざします。興味ある方はぜひ連合会事務局までご連絡ください。



八幡町（やわたまち 戸数49）

八幡町の表通りから路地へ入る所に、ひっそりと立つ小さな鳥居。これが神明神社の表参道です。細い路地を50mほど歩くと大きな鳥居と拝殿があります。秀吉の城下町整備前はこの一帯に現在の長浜八幡宮があったともされています。

町名のルーツでもあり「八幡町といえば神明さんかな」と自治会長の川瀬明良さん。「神明さん」と親しまれ、地域の人々の集いの拠点になってきました。子どもたちにとっても絶好の遊び場で、幹がカーブした境内のマツは競って登り合い、駆け上った痕跡が木に刻まれています。相撲大会もした土俵があった場所は、今では自治会館になっています。

表通りの外灯には『曳山のまち 八幡町』と記された看板が掲げられています。萬歳樓を構成する町のひとつで山蔵もここにあり、まつりが人々の結束を強めてきました。通りには和菓子屋、お肉屋さん、呉服店などが並び、かつてはもっとお店があり商店街のようでした。間口が狭く奥に長いうなぎの寝床タイプの造りの建物が多く「2階の窓をつたっ



神明さんには川瀬さんの子ども時代の思い出が詰まっている

て隣へ隣へと、順に行くことができてね。そうやって遊んで親に怒られたものです」

「郷土は自然が与えてくれた最高のプレゼントだと思っています」と川瀬さん。見慣れた、何気ない風景にそのまちらしさが隠されています。今後、各自治会を紹介していきます。

まちなか再発見① 湖北の暮らし案内所 どんどん 私の“一歩”を始める場所

細い細い路地を抜けるとパッと広がる視界。蛇行する米川が見渡せる、そんな場所に「湖北の暮らし案内所 どんどん」があります。屋号は、すぐそばに架かる「どんどん橋」にちなみます。

築年数がわからないほど古かった長屋を、まちなかの空き家再生に取り組む長浜まちづくり株式会社が改装、喫茶兼レンタルスペースとして2016年にオープン。レンタルスペースの使い方はさまざまで、ここを使ってランチやスイーツを提供する人、趣味のクラフト

長浜市元浜町15-10

0749-53-2532

11:00~16:00 水・木曜休

教室を開催する人、読書会を開催する人…、毎月初頭にレンタルスペースの利用予定がウェブサイトやチラシで公開され、多様な出店を確認することができます。

同会社の竹村光雄さんは「まだお店はもってはいないけどチャレンジしたいというような、自分の一歩を踏み出す場所」と話します。ご存じのようにまちなかは観光地としてにぎわいが発展してきた歩みがあります。ただ、「よそから来る人」のためだけでなく、「ここに住む人」そして「自分のための」場であってほしいとの思いが、どんどんには込められているのです。

何よりの魅力は、つながりが連鎖していくこと。単にモノや食事が行き来するのではなく、出会いや交流の磁場にもなっています。観光地とはまた違う、新たなまちのストーリーが生み出されていく場所でもあります。

まちなかに住む人でも通ったことのないかもしれない路地の先一一、散策がてら訪れてみてください。



まちづくりの新しいかたちを提案している